

# グリーン購入全国フォーラム 2012 in 仙台 講演概要

## 【第3部】

基調講演 東北大学大学院 石田秀輝教授

「復興にいかせ！ 自然に学ぶ粋なテクノロジー ～グリーン購入の未来～」

環境と経済は両立するのでしょうか、地球環境問題と心豊かに暮らすことは両立するのでしょうか？ 今こそ、この課題に解を出さねば、私たちは何も次の世代に手渡すものがなくなってしまいます。そもそも、心豊かに暮らすということはどういうことなのでしょうか、それは人の欲を満足させるということです。欲を満足させながら、地球環境のことを考える・・・そんなことが両立するのでしょうか、答えはイエスです。ただし、そのためには従来の延長ではなく、新しい視座が必要です。エネルギーも資源も無いこの日本が生きて行くためには、世界から尊敬されるものづくりと暮らし方のかたちが必要です。それは、こころ豊かな暮らしに責任を持つあたらしいものづくりのか・た・ちだと思うのです。

講演 河北新報社 編集委員 寺島英弥氏

「荒れ野から立つ～震災から1年半の被災地は今」

昨年3月11日に起きた大震災から、1年半が過ぎました。「被災地はもう、復興してしまったのでは？」「テレビのニュースで震災の話をやらないよね...」。こんな声が、あなたの周りで聞かれませんか。これが風化なのです。東北の被災地からの切なる声は、「どうぞ、来てみて、ありのままを感じて、話を聴いてみて。私たちを忘れないで...」。

津波で被災した市町村では、見渡す限りのがれきの山が片付けられ、後にはむきだしの土色の更地が広がっています。高台などへの集団移転事業、土地区画整理事業はようやく緒に就いたばかり。それも長い時間を要し、人口流出や産業の回復遅れは深刻です。

福島原発事故被災地では、ぼちぼちと国の除染事業が始まったところで、16万人に上る避難者たちの未来図は見えません。放射能の壁に「帰村」をあきらめる人、自らの希望を生み出そうと除染実験に取り組む人、長引く風評や価格下落に苦しむ生産者たちも。取材してきた被災地の今を、多くの写真でお伝えします。体験の旅においでください。

事例紹介 株式会社ファミリア 代表取締役 島田昌幸氏

「環境・福祉・防災による復興プロジェクト（ロクファームアタラタ）」

～90年後の君へ～

(講演概要)

【90年後の君へ】私たちは、今回の震災で様々なことを経験し、この経験を伝えていく必要性や必然性を感じました。「豊かさ」を第一に求めすぎたことで、人間の脆さが露呈されたのです。

震災で電気を失くしてみても、人間が電気や携帯などに頼りきっていることが分かりました。

震災の教訓を伝え、自分で火をおこし、そこになっている食材で食事をつくり、生きる力を呼びさまし、震災に負けない知恵を学び、『復興の未来』について語り合える場として、地域のコミュニティの場となるようベジタブルガーデンの中に「蕎麦屋」や「パン工房」などの食をテーマとした施設を設けます。

そして、震災時に主に問題となる「被災者の雇用」「被災者の避難」「食糧」「エネルギー」の全ての解決を試み、未来の子どもたちの幸せな顔を創りたいと考えています。